

寒中そして禍中、心よりお見舞い申し上げます。

一段と激しさを増す一方の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の猛威に晒される中、一都三県において再び緊急事態宣言が発令されました。感染拡大阻止のための止むを得ない措置とは申せ、日本経済への大打撃は必至で、当然ながら首都圏だけの問題ではありません。

実は、行く末を案じる岡山県の経済界から、「神仏の加護に頼る外ない。諸宗教による終息祈願を行ってもらえないか…」との相談を個人的に受けました。幸い、私が世話役係の事務局長をつとめる「人道援助宗教 NGO ネットワーク（RNN）」の仲間たちの賛同により、実施する運びとなりましたが、この際、決してパフォーマンスだけに留まってははいけません、幅広くご賛同者を募って、できるだけ多くの諸宗教関係者各位とともに、あらためて心ひとつにつとめる祈願を、悩み苦しむ方々に伝えて“おかげ”を受けていただきたいという強い思いに至りました。

その理由の一つが、第三波真っ只中の時期に迎える、今年は二月二日の節分の日の追儺（鬼やらい）の伝統こそ、日本国内の諸宗教指導者、および信仰者の方々が、人から言われるまでもなく自らの信仰に拠って「コロナ禍終息」を祈らずにはいられない日に違いないからです。

昨年の感染拡大以来、私たち宗教者は、様々な形で宗教・宗派・教団を超えた祈りを協力して行って参りました。諸宗教による合同の祈りは、「今や、全く特別なことではない」と個人的には思っていますが、世間の多くの人々の認識は決してそうではありません。そして、「神仏に頼る外なし…」という危機的状況に追い込まれている今こそ、それぞれの「節分」の追儺（鬼やらい）の祈りを、「同じ思いで祈る他宗の人々と心ひとつになって」おつとめいただきたく存じます。

昨今話題の“オンライン”で繋いで…」ということも考えられますが、古来「遥拝」とか「心参」の文化を有する日本の宗教界です。「節分の日に、

心ひとつにコロナ禍終息を祈る」だけで、それぞれの願いは収斂されると確信します。何卒、趣意にご理解・ご賛同賜り、別紙「賛同書」に「承諾」の上、ご返信いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

諸師・諸兄各位の真摯な祈りに神仏のご加護の顕かなることを、心よりお祈り申し上げます。

再拝拍手

令和三年正月八日

人道援助宗教 NGO ネットワーク (RNN) 事務局長
黒住教教主 黒住宗道 拝

記

期 日 令和3年2月2日 (火)

次 第 各伝統に基づく

備 考 ① ご賛同いただける方は、別紙「賛同書」にご署名・ご記入の上、下記までご返送、または FAX、メール (e-mail) 送信してください。

② 賛同者一覧を公開させていただく場合があることを、予めご了承ください。

送り先 〒701-1212 岡山市北区尾上 2770 黒住教本部内 RNN 事務局宛

FAX 086-284-1242

e-mail info@rnn.jp

メールは、ご署名いただいた賛同書を添付送信してください。

締 切 令和3年2月1日 (月)

以上

賛 同 書

令和三年「節分（追儺の式）」（名称は各々の伝統に基づく）において、
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の終息を、同じ思いで祈る諸宗
教者、および信仰者各位と心ひとつに祈ります。

上記に賛同します。

年 月 日

役職名 _____

氏 名 _____